

# WEEKLY

# 一宮

題字 PG 安野謙次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

Rotary  
Ichinomiya



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日  
●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 ☎491-0858



## 世界に希望を生み出そう

URL:<http://rc138.org>

E-Mail:[rc138@lily.ocn.ne.jp](mailto:rc138@lily.ocn.ne.jp)

### 2024年6月6日 第3594回例会

会長 足立 誠 会長エレクト 佐々木久直  
幹事 富田 隆裕 副幹事 鶴飼雅弘  
副会長 山上 哲司 会報委員長 野村和弘

### 新会員紹介



氏名 坂野 公治 君  
職業分類 鉄道事業  
勤務先 名古屋鉄道(株)  
役職名 専務執行役員  
生年月日 昭和38年3月18日  
紹介者 豊島半七君



氏名 判治 忠明 君  
職業分類 商工会議所  
勤務先 一宮商工会議所  
役職名 専務理事  
生年月日 昭和39年3月3日  
紹介者 豊島半七君



氏名 森 太郎 君  
職業分類 警備業  
勤務先 総合警備保障(株)  
役職名 尾張支社長  
生年月日 昭和57年11月15日  
紹介者 野村章夫君

ではおシャカ様は、人間の苦しみや悩みをどのように解消すべきかを、これまた合理的に説き明しておられます。先ず苦しみや悩みをきちんと認識すること。次にその苦しみや悩みを生み出す原因を探ること。さらにその原因をなくすことによって苦しみや悩みが解消される。そして最後にその方法(「道」)を実践するとしておられます。

### 委員会報告 ニコボックス

梅谷朋志

- ☆ 大森輝英君  
赤福の濱田さんをお招きできた喜びで。本日の卓話を楽しみにしております。
- ☆ 則竹伸也君 榊原 讓君 山口元彦君 佐々憲一君 梅谷朋志君  
先週シンガポールで開催されたRI国際大会に参加してきました。楽しく貴重な経験ができた4日間でした。
- ☆ 高木道久君  
今春から中京大学法学部専門教授に配転となりました。法学部の2年生の学生さんを相手に、少し若返った気分で労働法について話しています。宜しくお願いいたします。
- ☆ 足立 誠君  
パリオリンピック出場予定の柔道競技の本校出身の永山選手が、直近の「世界選手権」で予定通り初戦敗退しました。心臓が弱いのでオリンピックでは皆様の応援宜しくお願い致します。

### プログラム

#### 卓話

稀 温氏 (株 リテール)

テーマ「場があれば、出会える」

国歌「君が代」  
ロータリーソング「奉仕の理想」

#### 6月度のプログラム

- 6日 卓話 稀 温氏
- 13日 休会 定款第7条第1節d
- 20日 ミニコンサート Harp Flute
- 27日 クラブアッセンブリー 理事役員退任挨拶

#### 会員誕生日おめでとう

- 桑原英寿君(6月 4日) 浅野 一君(6月 6日)
- 中西啓太君(6月11日) ニノ宮道彦君(6月12日)
- 野田一郎君(6月13日) 長尾昌浩君(6月17日)
- 牛田 滋君(6月19日) 柴垣健一君(6月25日)
- 萩原 仁君(6月30日)

#### 会員夫人誕生日おめでとう

- 川松久芳君夫人 麻里子様(6月 2日)
- 加藤 亘君夫人 由 美様(6月 3日)
- 松田暁昌君夫人 美千代様(6月22日)

#### 結婚記念日おめでとう

- 佐々憲一君(6月 1日) 江崎正和君(6月10日)
- 野田一郎君(6月10日) 小林由洋君(6月10日)
- 木村憲彦君(6月14日) 富田隆裕君(6月15日)
- 近藤尚文君(6月15日) 村手 誠君(6月20日)
- 佐々木久直君(6月30日)

#### 第3593回例会の記録 2024年5月30日(木)

#### 会長挨拶

おシャカ様の教理は大変理路整然としています。「縁起」とは、様々な多くの原因(「因」や「縁」)によって結果として事柄が生じて来るというもので、極めて合理的です。また「業」という言葉が以前よく言われたものですが、これは「善因果果」・「悪因果果」を生み出す原動力です。私たちは知らず知らずに「業」とか「善因果果」等を心の奥底で信じているように思います。

足立 誠

#### 次回の予定

- 6/13 休会 定款第7条第1節d
- 6/20 ミニコンサート Harp Flute

☆ 足立 誠君 富田隆裕君

本日、(株)赤福顧問・濱田典保様よりテーマ「お伊勢参りの仕掛人」の卓話を頂戴いたします。どうぞ宜しくお願い致します。

## 出席報告

現在の会員数 111名  
本日の出席数 63名  
前々回の出席率 100%

\*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*

### 卓話

濱田 典保氏

(株式会社赤福 顧問)

テーマ「お伊勢参りの仕掛人」



本日はお招きを頂きありがとうございます  
岩田先輩、大森君にお声がけを頂き参りました  
ここの宮の真清田神社も尾張一之宮として有名ですが、私は伊勢神宮の門前町からやって来ました。

大森君からは何か伊勢の面白い話しをしてよ、と言われておりまして、今日はいつもと視点を変えてお伊勢参りの仕掛人と云うお話しをさせて頂きたいと思っております。

あくまでひとつの視点として申し上げますが私はおおよそ世間を騒がせる事象や事件、スキャンダル、果ては紛争まで、世の中にかかる偶然だけで起こると云うことはなく、大抵は誰かの思惑が絡んで引き起こされると思っています。例えば暑くなると土用の丑の日うなぎを食べるのが日本人の決まり事みたいになっていますが、本来自然界のうなぎは冬が旬であって脂が乗って一番美味しいが、全く客の来ない江戸のうなぎ屋が平賀源内と云うアイデアマンの先生に頼み込んで夏うなぎを食べる暑気払い、とキャンペーンを打ったと云うのが定説になっています。

江戸時代、庶民の間で大流行したお伊勢参りにも仕掛人がいました。

三重県は特に中心になる町や地域と言うものが有りません。歴史的を遡れば伊勢湾岸に面した平野は伊勢の国、南部は東紀州と言って紀州徳川藩の領地が伸びて来ていました。志摩半島の先端は志摩の国、ここは元々海賊の治める地域です。

私の家内の出身地伊賀は忍者の里です。海賊や忍者が同居しているんですから三重は昔からバラバラでした。そんな三重に伊勢神宮はやって来ました。垂仁天皇の時代ですから2~3世紀頃と云われています。伊勢神宮の御神体は三種の神器のうち八咫の鏡・元々は皇居に他の神器

と一緒に祀られていた。しかし不幸事が続いてご神託が降り、国の安定のために鏡は天皇の住まいである橿原の宮から真っ直ぐ太陽が昇って来る方向、伊勢に移された。

伊勢神宮には今も大勢の神主が詰め、毎日祭祀を行っていますが、それらのお祭りは元々宮中祭祀から来ている。伊勢神宮が特別視されるのはそういう事だから、そして本来皇居の中にあるはずの伊勢神宮に一般庶民である我々が直接お参りする事は恐れ多くてはばかられた。ではそんな伊勢神宮に全国的から何故、老も若きも、男も女も、大名から庶民まであらゆる階層の人たちが、お参りに来るようになったのか？それは伊勢神宮の神主たちが手分けをして全国津々浦々を周り伊勢の神さまのチカラはスゴいよと宣伝をして廻ったから。

江戸時代まで日本人の9割は農業や漁業で暮らしていた。天候や天災に左右されるまさに神頼みの生活を暮らしている当時の人たちの心に太陽を変わらず昇らせてくれたり、食の恵みを与えてくれる神さまはグサッと突き刺さった。もちろん庶民が直接願い事をする訳には行かない神さまですから神主たちはちゃっかり自分たちの屋敷に参拝者を招いて、お願い事の代行業をやった訳です。お伊勢参りが始まる江戸の初期まで当時の人たちは自由な移動が厳しく制限されていましたが、取り締まる幕府もお伊勢参りなら仕方がないとそれを許した。結果お伊勢参りが日本中に大ブームとなった。

実はこの全国を巻き込んだ大ブームの火付け役になった神主はどちらかと言うと位の低い給料も少ない身分だったと云われている。そもそも身分の高い、給料もガッチリ貰っている神主は基本祭祀が仕事ですから伊勢を離れる訳にはいかなので給料の安い神主が副業で始めたのがお伊勢参りだったと云える。彼らは恩師と呼ばれていますが実はこの恩師なかなかのアイデアマンでした。貧しい村では皆が少しずつお金を積立てて代表者にお参りに行かせる、これは誰もが考えつく事ですが、例えば当時の旅には色々なリスクがついて回ります。例えば旅先での病気であるとか、サイフを盗まれる危険誰もが遠い伊勢まで行くのは不安に感じたでしょうが恩師はアイデアでこれに答えました。

現金を持ち歩くリスクには葉書の発行と云う今でいう手形を振り出し旅の途中決まったところで信用と引き換えにお金に換金出来る様にしました。急な病気にも指定の場所や宿で医師や薬の手当てが受けられ料金は積み立てたお金から別精算今で云う保険の原型の様なサービスを作りました。明治時代になって保険業が国の認可制になった時伊勢の恩師が最も早く申請を出したのはそんな背景からです。

日本の旅のルーツがお伊勢参りに有ると云われるのは、こんな仕組みがちゃんと整えられていたから全国に伊勢参りの火をつけ、時代を先取りしたアイデアでそれを支える神主の活動が有ったから今日のお伊勢参りがある。実は私濱田家も先祖を迎れば神主をやっていました。しかしうちのご先祖はそんな全国を歩き回るバイタリティーはありませんでした。

では何もしないで伊勢に留まっていたかと云うとそうではありません。伊勢に続々とやって来る参拝者を相手に、お餅を振る舞ってちゃっかり商売を始めたのが我がご先祖さまです。